

日本ハビタット協会は住民主体の持続可能なまちづくりにおいて「子どもと女性にやさしいまちづくり」を大切にしています。

▶ ケニアの少女と女性の自立を妨げる3つの問題



① 月経衛生対処 (Menstrual Hygiene Management)

大人の体へと成長していく女性と女兒にとって公衆衛生上とても重要ですが、ケニアの農村部では、適切な月経衛生情報、製品、水へのアクセスが欠如し、また文化的社会的偏見や差別と相まって、ケニアの女性と少女の生理の貧困につながっています。

② 女性性器切除 (Female Genital Mutilation)

初潮は大人の女性へと成熟していく兆候と見なされ、ケニアの特定の地域では女の子がFGMにさらされています。女性の割礼とも呼ばれ、非医学的理由に基づいて女性の外性器の部分的または全てを切除することで、女性の人生に精神的肉体的苦痛を与え続けることになります。



③ 児童婚 (Child Marriage)

生理やFGM施術された少女は結婚持参金を目当てに結婚を強いられる場合があります。若年で結婚と出産することで、自身の才能やアイデンティティを探求する機会が失われ、また、ジェンダーに基づく暴力や搾取を受けやすくなります。

▶ 女性が自身の可能性を広げられるように

月経衛生対処に関わる問題を解決し、女性たちが自由に羽ばたけるコミュニティづくりを目指し、生理環境改善プロジェクトを実施しています。2023年から小中学校2校及び1村を対象にしたパイロット事業を開始し、2024年からは小中学校4校及び15村に事業を拡大しました。

女性が適切な月経衛生対処が行えるよう、そして男性や社会に根付く生理や性への偏見をなくし、女性が自身の能力を開花できるコミュニティの土台の醸成に向けた取り組みを行っています。

● 性教育及び生理用品(布ナプキン、下着、石鹸)作成トレーニング

● 啓発活動キャンペーン

● 女性の所得向上(農業技術指導、家計簿導入、女性の収入管理強化)

● 家庭レベルの給水環境改善



好みの柄を
選んで下着制作!
女性の意識向上にも
役立っています。

▶ 変わり始める人々

小中学校

2024年7月から6ヶ月間毎週一回性教育を含む健康教育が行われるようになり、男女が一緒になってそれぞれの身体の仕組みや女性の生理などについて学びました。また、生徒達は校内菜園でかぼちゃやケールを育て、衛生用品づくりにも取り組むようになり、それらを学校が買い上げることで、女子生徒はなお金で市販の生理用ナプキンを買えるようになりました。

村と女性グループ

正しい月経衛生対処の理解が深まるだけでなく、手作り生理用品や野菜栽培の技術習得も進みました。収入向上により市販の生理用品を購入できるようになっただけでなく、足踏みミシンの購入に向けた貯蓄など、女性グループでお金を管理するようになりました。足踏みミシンにより、もっと多くの生理用品の制作と販売が行われ、女性が個々の状況に合わせた月経衛生対処ができるようになると期待されます。

男女相互理解

「月経衛生の日」や「国際ガールズ・デー」などに合わせ啓発活動キャンペーンを開催し、毎回300名を超える住民が参加しました。ケニアの男性は、これまで生理をはじめ女性の身体について学ぶ機会がありませんでした。そのため、女性がどのような負担を強いられているのか、またどのようなサポートを必要としているのかを知ることができませんでした。イベントを通して、少しずつ理解が深まり、意識が変わり始めました。

▶ 日本とケニアの女性がつながる

ケニアの女性たちが抱える生理の課題と似たような課題が日本にも内在しています。ケニアの現状を知ることで、日本での生理問題解決について考えるきっかけになればと願っています。また、学校や企業での講演やワークショップで参加者からあがった意見やアイデアを現地の活動に反映したり、日本でのさまざまな取り組みをケニアに知らせていくことで、日本とケニアが互いにつながり合いながら励まし合いながら女性にとってのより良い社会を作っていきたいと思っています。



高校での布ナプキンづくりワークショップ

ラオス北部ルアンパバーンは、町全体が世界遺産に登録されていて、毎年多くの旅行者が訪れます。2021年12月にラオス中国鉄道が開業してからは、隣国の中国やタイからだけでなくラオス国内からの旅行者が激増しました。

観光都市として発展する中ごみ問題が深刻化しており、大規模なインフラ整備による解決もありますが、ラオスの行政システムや経済情勢を踏まえると、コミュニティベースでのゴミ分別とリサイクルを進めることが有効だと考え、下記の活動に取り組みました。



住民みんなで
美しい観光都市を
守っています!

① 住民のゴミ分別意識向上と実践技術の習得

② ゴミ分別ステーションの設置

③ 啓発ポスターの配布

④ ゴミ分別による収入向上と活動の持続

▶ ゴミ分別習慣の定着

ワークショップを通してゴミ分別方法だけでなく、生ごみからのコンポスト生産、校内菜園などの実践技術を学んだことで、学校と村に設置したゴミ分別ステーションを活用して適切なゴミ分別が行われるようになりました。

▶ 分別による収入向上と活動の持続

仕分けしたリサイクルごみを販売することで、村で月3,200円、学校で月2,000円の収入につながり、また、学校ではこれまでごみ回収業者に月3,000円の回収費用を支払っていましたが、分別によって一般ごみの量が減ったことで、なんと500円まで減らせるようになりました。

▶ 人々の意識が変わる

ゴミは正しく分別し活用すれば、環境だけでなく自分の暮らしにも恩恵をもたらすことを実感できたことで、次世代を担う子ども達はもちろん大人達の意識も着実に変わりました。



積極的にゴミの分別活動に参加する子どもたち



住民によるゴミ分別ステーションの管理



生ごみコンポストで作った堆肥を菜園で活用

能登半島地震・豪雨災害支援事業

当協会は、これまで被災者ニーズに合わせた物資支援をはじめ、輪島大祭といった伝統芸能・文化の復興支援、子どもの居場所づくりなどを行ってきました。2025年4月13日に石川県内の全ての避難所が閉鎖されましたが、未だ多くの方が仮設住宅や広域避難での暮らしを強いられている状況で、住宅や暮らしの再建には長い道のりとなりそうです。また、奥能登地域の4つの市と町では能登半島地震の発生から1年半で人口が11.2%減少したそうです。

現在、子どもの生活・教育環境の改善に焦点をあて、輪島市内の保育園や幼稚園、小中学校を対象に支援活動を行っています。かわい保育園には屋外用テーブルを贈りました。昨年の豪雨災害の時に園庭に泥水が入り砂場で使用していたテーブルがダメなってしまったそうです。砂場にテーブルがあると、遊びが広がり子ども同士の関わりも多くなるそうで、元気いっぱいに遊んでくれたらと願っています。また、6月4日の「むし歯予防デー」に合わせて乳幼児用歯ブラシを届けました。



ニーズに合わせた
物資支援と子どもの
居場所づくりに
力を入れています。

